

【報道関係各位】

2017年5月31日
日本酒造組合中央会

日本人の飲酒動向が明らかに！全国 3,000 人を対象とした約 **30** 年ぶりの調査

「日本人の飲酒動向調査」を発表

- ◎お酒を飲む女性が約 20%も増加。気分転換の方法としてライフスタイルの中で定着！？
- ◎日本酒を飲む人の約 70%が食事の「食中酒」として嗜んでいることが判明

日本酒造組合中央会（東京都港区：会長 篠原成行）は、本年 1 月に全国の 20 歳～79 歳の 3,000 人を対象に実施した「日本人の飲酒動向調査」の結果を発表します。本調査は、核家族化や少子高齢化、健康志向の高まりなどライフスタイルが変遷する中、日本人の食生活や飲酒動向を明らかにし、調査を通じてより豊かな生活や飲酒ライフを提案していくことを目的にしたもので、1988 年の調査以来、約 30 年ぶりの調査となります。

【調査結果トピックス（抜粋）】

- ランキング編
 - 直近で飲んだお酒はビールが 1 番。日本酒は約 3 人に 1 人が飲酒
 - 日本酒は「伝統的」「通向け・本格的」なイメージがあるお酒として 1 番に
- 男女編
 - お酒を飲む女性が増加（52.6%→72.9%）。気分転換にお酒を嗜む人が増えている！
- 年代別編
 - 若年層はお酒離れしていない！？20代はチャレンジ意欲が旺盛
- ライフスタイル編
 - 中～高齢層に比べ、若年層ほどソト飲みの傾向（5.5回/月）が明らかに！
 - 日本酒を食前酒から「食中酒」として飲む人が増えている（21.1%→68.5%）

※※ 飲酒・日本酒を取り巻く環境 ※※

国内消費の低迷や若年層のお酒離れ等、お酒ならびに日本酒を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。本年 4 月には、お酒による健康被害の対策を推進する「アルコール健康障害対策推進室」が厚生労働省にて新設。また、6 月 1 日（木）には酒類の過度な安売りを防ぐことを記した改正酒税法が施行されます。一方、海外から旅行者によるインバウンド消費や日本国外への輸出は成長しているなど、大きな可能性を秘めています。特に日本酒の輸出は、過去 7 年の間に数量・金額ともに大きく成長しており、平成 28 年度はそれぞれ 19,737 キロリットル（前年比 109%）、156 億円（前年比 111%）となっています。

- 調査結果トピックスの詳細については次頁以降を参照ください。

【ランキング編】

直近で飲んだお酒はビールが1番。日本酒は約3人に1人が飲酒

1ヶ月間で飲んだお酒を尋ねたところ「ビール」が61.2%と最も高く、「日本酒」は2番目に高い35.5%、「ワイン」が3番目に高い32.5%という結果になりました。

また、酒類別でみると「日本酒」は60~70代で最も飲まれており、「カクテル」や「ハイボール」は20~30代に、「ワイン」や「ウイスキー」はどの年代でも飲まれていることが分かりました。

飲酒者が直近1か月間で飲んだお酒

※「カクテルなど」は梅酒、その他の果実酒（ワイン以外）リキュールも含む
※「ハイボールなど」はチューハイ、サワーも含む

n=		(%)						
		日本酒	焼酎	ビール	ウイスキー類	ワイン	カクテルなど	ハイボールなど
全体	7,695	35.5	26.4	61.2	15.9	32.5	21.8	27.7
20代	1,090	26.6	15.9	48.7	12.8	25.3	33.5	39.5
30代	1,418	25.5	20.2	52.9	14.7	25.0	26.5	35.3
40代	1,310	30.6	24.6	62.1	14.4	32.3	21.5	33.7
50代	1,327	36.3	31.0	65.4	17.0	35.6	18.8	28.6
60代	1,477	46.2	33.0	70.3	19.1	39.1	15.4	18.8
70代	1,073	48.4	32.8	66.1	17.0	36.8	16.5	9.5

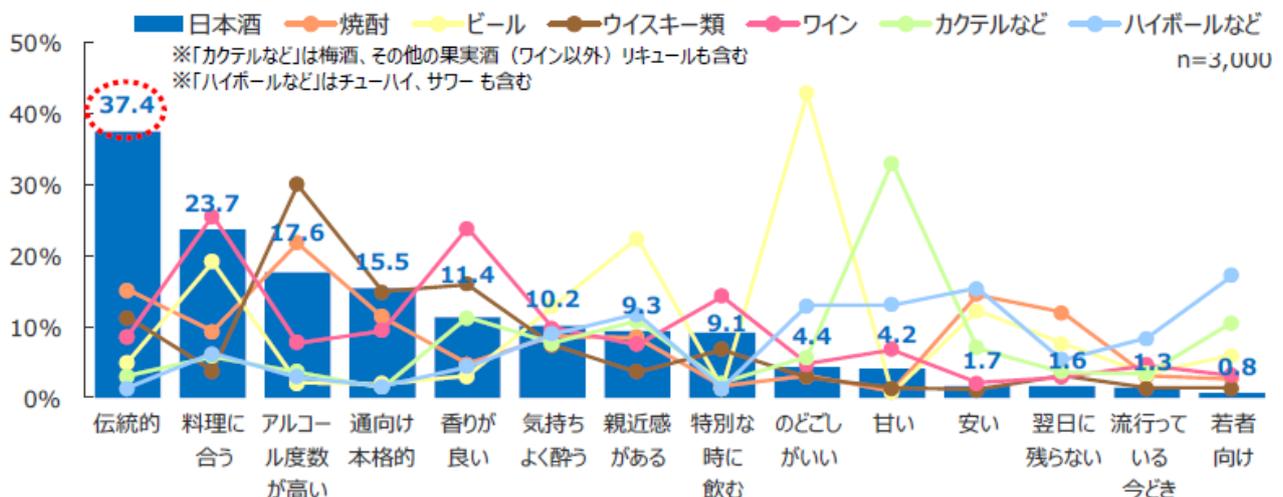
※スクリーニング調査の対象者約9,900名のうち、7,695名（飲酒者）が本質問の対象条件に合致。

日本酒は「伝統的」「通向け・本格的」なイメージがあるお酒として1番に

各酒類のイメージを尋ねたところ、日本酒に対しては「伝統的」「料理に合う」が上位を占め、「伝統的」「通向け・本格的」が全酒類の中で一番高い結果となりました。

また、ビールは「のどしがいい」「親近感がある」、ワインは「香りがいい」「特別な時に飲む」、ハイボールは「若者向け」が上位となっています。

各お酒のイメージ



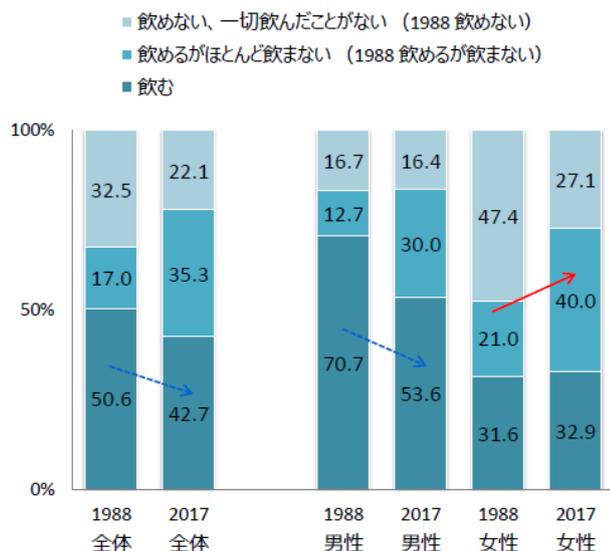
【男女編】

お酒を飲む女性が増加(52.6%→72.9%)。気分転換にお酒を嗜む人が増えている！

飲酒率を尋ねたところ、1988年と比べると男性は減少・女性は増加していることが明らかになりました。特に女性は「飲む・飲める（飲めるがほとんど飲まない人含む）」人が約20%も増加。30年前と比べ、お酒を嗜む人が増えていると考えられます。

また、飲酒量の増減理由を尋ねたところ、「普段の生活でのストレス頻度が変わった」という回答も多く、男性の30代・50代について、女性の20代・40代が多い結果となりました。

飲酒率（非飲酒者含む全体ベース）



普段の生活でのストレス程度が変わった（性年代別）

男性20代	6.3%
男性30代	15.8%
男性40代	8.3%
男性50代	11.4%
男性60代	3.3%
男性70代	5.3%
女性20代	10.4%
女性30代	8.7%
女性40代	10.6%
女性50代	8.7%
女性60代	3.9%
女性70代	3.6%

飲酒量の増減理由（増えた理由TOP5）

誘われる頻度が変わった	14.4%
普段の生活でのストレス程度が変わった	8.1%
遊び相手・食事をする相手が変わった	7.3%
仕事の忙しさが変わった	6.2%
お酒がおいしいと感じるようになった	6.1%

飲酒量の増減理由（減った理由TOP5）

体調や健康を気にするようになった	21.9%
お酒に弱くなった	18.6%
節約するようになった	11.0%
お酒がおいしくないと感じるようになった	7.4%
体型を気にするようになった	5.6%

n=1,351

<<ストレスの解消にはお酒を？>>

ストレスにより、血管壁に沿って分布している交感神経の末端からノルエピネフリン（ノルアドレナリン）というホルモンが分泌されて血管は収縮します。一方、日本酒や赤ワイン、焼酎、ウイスキーには血管の拡張を促す物質として、アデノシンが含まれています。

愛媛大学の奥田拓道教授の文献^{*}によると、血管に同量のノルエピネフリンとアデノシンを振りかけたところ血管の収縮が見られず、ストレスで収縮した血管をアセトアルデヒドとアデノシンが拡張して血流が流れやすい状況を作ることがわかっています。特に日本酒には、他の酒類に比べ多くのアデノシンが含まれています。

^{*}奥田拓道「2002-2003 改訂新版健康・栄養食品事典」（東洋医学舎 2002年）

【年代別編】

若年層はお酒離れていない！？20代はチャレンジ意欲が旺盛

飲酒量やお酒購入時の意識を尋ねたところ、20代は1回あたりの飲酒量が多い傾向があり、ビール以外のお酒を飲む量は他の年代に比べて最も高い結果となりました。また、若いほど新しいお酒へのチャレンジ意欲が高く、銘柄指名買いをしない傾向も明らかになりました。

1回あたりの飲酒適量 (ml、平均)

	全体 n=3000	20代 n=428	30代 n=551	40代 n=512	50代 n=520	60代 n=573	70代 n=416
日本酒	195	234	214	208	199	178	161
焼酎	219	254	240	253	222	197	162
ビール	405	408	430	453	460	354	336
ウイスキー類	180	274	222	187	170	152	125
ワイン	234	272	251	269	259	200	166
カクテルなど	229	321	291	250	205	156	134
ハイボールなど	310	360	339	354	314	231	206

お酒購入時の意識

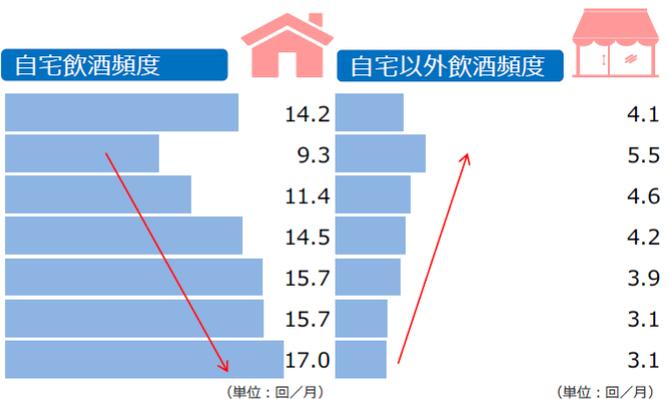
	全体 n=3000	20代 n=428	30代 n=551	40代 n=512	50代 n=520	60代 n=573	70代 n=416
新しいお酒へのチャレンジ意向	33.5	41.1	38.8	35.0	34.8	29.0	21.4
銘柄を指定買いくる	21.1	12.4	14.0	17.6	25.0	26.9	30.8

【ライフスタイル編】

中～高齢層に比べ、若年層ほど「外飲み」の傾向(5.5回/月)が明らかに！

飲酒を始めた場所を尋ねたところ、1988年に比べて「居酒屋」で飲み始めた人が約25%も増えていることが明らかになりました。また、どこで飲酒するか頻度を尋ねたところ、自宅で飲むに回数が多い(全世代の平均14.2回/月)ことが分かりました。一方、外で飲む人の傾向を調べたところ、若年層は中～高齢層に比べ自宅以外での飲酒頻度が高いことも分かりました。

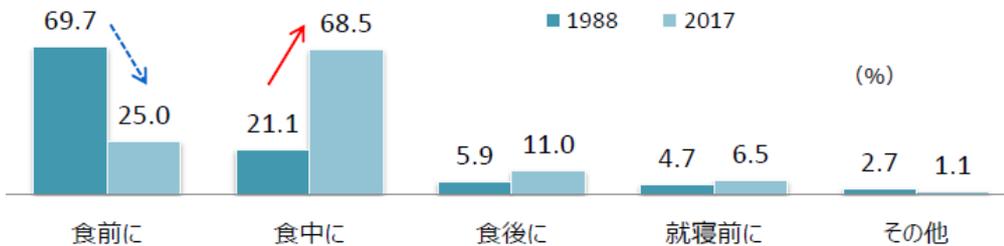
飲み始めた頃の飲酒場所 (飲酒者ベース)



日本酒を食前酒から「食中酒」として飲む人が増えている(21.1%→68.5%)

一番最近の飲酒で日本酒を飲んだ人に日本酒を飲むタイミングを尋ねたところ、1988年と比べて「食前」から「食中」と答えた人が約45%も増え、日本酒を飲む人の約70%が食中酒として楽しんでいることが分かりました。

一番最近日本酒を飲んだタイミング (一番最近の飲酒で日本酒を飲んだ人ベース)



<<日本酒造組合中央会 理事 濱田 由紀雄>>

昔は、食事を楽しむこととお酒を楽しむことは、基本的に別のものと考えられていました。日本酒を飲むときは日本酒だけ。もしくは、簡単なおつまみ程度を添えて飲む人が多く、お酒の「通」と言われる人ほどその傾向が強かったと思います。それには、日本酒が日本人の主食であるお米が原料のため、ご飯の替りという意識もあったのではないのでしょうか。一方最近では、飲酒と食事を一緒に楽しむ習慣が定着してきたこと、日本酒が料理の美味しさを引き出してくれることが広く理解され、食事中に日本酒を飲む人が増えたのだと思います。

本調査の詳細につきまして、下記リンクよりダウンロードください。

<http://xfs.jp/knaExa>

【調査概要】

<<2017年度調査>>

- ・調査期間：2017年1月6日～1月16日
- ・調査対象：20～79歳の「飲酒者※」男女3,000名
- ・調査手法：ウェブ定量調査

※飲酒者＝「飲む」「飲めるがほとんど飲まない」と回答した人

<<1988年度調査>> ※参考

- ・調査期間：1988年2月18日～2月28日
- ・調査対象：満20歳以上の約2,400名
- ・調査手法：質問紙による記入回答

■日本酒造組合中央会について

日本酒造組合中央会は、酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律（昭和28年2月28日法律第7号。以下、「組合法」という。）に基づき、酒税の保全及び酒類業の取引の安定を図ることを目的として昭和28年に設立しました。また、会員同士の緊密な連絡による親和と、相互の協調する精神に基づき、酒税の円滑な納税を促進し、酒類業界の安定と健全な進歩、発展のために必要な事業を行い、自主的、且つ、自由公正な事業活動の振興を期すると共に、酒税の保全に協力し、共同の利益の増進を図ることを目的としています。

<<報道関係者からの問い合わせ>>

日本酒造組合中央会 PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：服部、石原、藤岡、重田（おもだ）

TEL：03-6894-3200 Mail：japansake@ssu.co.jp